

第 11 回アジアの建築交流国際シンポジウムにおいて講演を行いました（2016/9/20-23）

テーマ：仙台防災枠組、減災、Build Back Better
場所：東北大学川内キャンパス 萩ホール

2016 年 9 月 20 日から 23 日にかけて、東北大学において第 11 回アジアの建築交流国際シンポジウム（ISAIA）2016 が開催されました。本国際会議は、日本建築学会が 100 周年を迎えた 1986 年に始まったもので、日本・中国・韓国、三ヶ国の建築学会の主催により、国際化する社会における建築の役割を深く理解し、建築に関わる知識をいかに役立てていくかを共有することを目的として、2 年に一度開催されています。今回はその 30 周年を記念して、開催されました。

当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は 2 日目となる 9 月 21 日に、公開テーマセッション『A. リスクマネジメント・防災・復興 国境をこえる世界、共有される知恵—リスク社会における将来の都市・地域像の第二部：味の防災復興協力ネットワークの構築に向けて』の中で、「Repetitive Recoveries of Sanriku Coastal Areas in the history and “Build Back Better”」と題した講演を行いました。村尾教授は、明治三陸津波、昭和三陸津波、そして東日本大震災後の復興についてその変遷を追って説明し、仙台防災枠組にも盛り込まれている「減災」や「Build Back Better」の重要性について講演しました。同セッションでは、日本、インドネシア、中国、韓国からのパネリストらによる発表もあり、今後の各国の関わりについて活発な意見交換も行われました。



村尾修教授による発表



発表スライド



会場入口



セッション A 第二部パネリスト

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）